

## 事業報告書

1 支援団体名	筑後川まるごと博物館運営委員会
2 事業名称	頻発する水害への備え～昭和28年筑後川大水害を伝え学ぶ活動～
3 実施日時	2019年6月～2020年2月
4 実施場所	福岡県久留米市 筑後川防災施設くるめウス
5 事業目的、内容及びその効果	<p>(事業実施状況・内容)</p> <p>① 7月6日に昭和28年筑後川大水害の体験者に集まっていただき、当時の体験談を語っていただく証言発表会を筑後川防災施設くるめウスで行った。西日本新聞に予告記事が載ったこともあり、多くの来場者があった。また、久留米大学生の参加もあった。事前に申し込みがあった方3名と当日会場で飛び入りで4名の方が、当時の体験を身振りを交えて詳しく証言した。また主催者から、ハザードマップと当時の写真を比較しその場所の洪水時の水位を伝えるなど、大水害当時の状況をスライドショーで聞き語り解説した。7月6日実施 40人参加、7人が証言発表した。</p> <p>② 来場者には同時に水害に関する記憶の収集を行った。体験者に証言ノートや付箋紙に情報を記入していただき、また関連の資料の収集をした。</p> <p>③ また期間中随時、昭和28年筑後川大水害写真展をくるめウスで行った。子どもたちから高齢者まで、家族連れの方など多くの来館者が写真とその解説文に興味深く見ていた。延べ約580人が観覧した。</p>
	<p>(事業実施効果)</p> <p>① 新聞に予告記事が載ったことで多くの来場者があった。</p> <p>② 実際に体験者した人の証言は参加者に臨場感を持って伝わった。</p> <p>③ 多くの当時の大水害の写真は、現在のその場所もひとたび水害となればそのようになることが来場者によく伝わった。</p> <p>④ 災害の記憶資料としての「災害派遣の歌」は、音楽から水害を体験したことのない人にも水害の実情を伝えて、今も現実に起こりうることを実感させることができた。</p> <p>⑤ 参加した人々に水害への備えの心構えを持たせることができた。</p>
6 参加内訳	総人数 584名
	(1) 主催者参加 4名
	(2) 日本人参加 ((1)を除く) 580名
	(3) 外国人参加 ((1)を除く) 0名
7 今後の方針	大水害から66年を経過しても、いつ起きるとも知れない水害への備えは常に行う必要がある。人々に過去の災害と備えの必要性を伝えるこの活動は今後も継続して行く必要がある。これからも体験者の声を伝え、そこから教訓や備えの大事さを広めていきたい。

7月6日昭和28年大水害証言発表会と写真展



7月6日昭和28年大水害体験者の証言発表



昭和28年大水害体験者の体験を証言する人



昭和28年大水害の体験を絵に描いた体験発表者



「災害派遣の歌」を歌詞を見ながらみんなで歌う



毎日新聞の当日実施の記事

